



# 決算説明資料

2008.11.28(東京) 2008.12.01(大阪)



Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## 決算概要と主要アクション



### 決算概要

- **売上高・受注高:**  
売上高は前期比11.7%増収の5,717百万円、受注高も前期比6.1%増収の5,811百万円となり、いずれも過去最高の実績となりました。
- **経常利益:**  
中間期に見られた材料費の急激な上昇が通期に渡って影響したことや、営業活動や研究開発活動の強化に伴う費用の増加等により、経常利益は292百万円となり前期と比べ41百万円の減益(対前期比12.3%減)となりました。
- **当期純利益:**  
スケジューリング(税務上の損金算入時期の特定)が困難な繰延税金資産70百万円を取り崩したことにより、当期純利益は147百万円となり前期と比べ54百万円の減益(対前期比26.8%減)となりました。

### 主要アクション

- **テスト&ソリューションサービス事業:**
  - ・2009年2月の開設に向け、大阪に鉄道車両機器向けの新試験棟の建設を開始
  - ・名古屋テストラボへの試験設備の早期導入と営業活動の強化
  - ・エスベックテストセンター株式会社と共同で試験の受託や技術セミナーを開催する業務提携契約を締結
  - ・大阪テストラボにてISO/IEC17025に準拠したIECQ独立試験所の認定を取得
- **組織・機構改革:**
  - ・チャンバー(恒温恒湿槽)の内製化を強化するために環境試験機事業部を設置
  - ・新技術・新事業の開発を推進する技術企画部を設置
- **販売強化:**
  - ・海外向けの販売強化により、ロシア向け好調
- **資本政策:**
  - ・経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために、50万株の自己株式の取得を実施

## 決算概要(連結)



(単位:百万円)

	08/9期 実績	07/9期 実績	増減額	増減率	08/9期 予想	増減率
売上高	5,717	5,118	+598	+11.7%	5,910	△ 3.3%
営業利益 (営業利益率)	248 (4.3%)	249 (4.9%)	△ 1	△ 0.4%	213 (3.6%)	+16.3%
経常利益 (経常利益率)	292 (5.1%)	333 (6.5%)	△ 41	△ 12.3%	250 (4.2%)	+16.6%
当期純利益 (当期純利益率)	147 (2.6%)	201 (3.9%)	△ 54	△ 26.8%	126 (2.1%)	+16.6%
	08/9期 実績	07/9期 実績	増減額	増減率	概要	
設備投資額	243	899	△ 655	△ 72.9%	前期に名古屋テストラボ向けの大型投資があった影響です。	
減価償却費	225	257	△ 32	△ 12.7%	主にソフトウェア製作費償却の減少です。	
研究開発費	261	207	+54	+26.1%	振動シミュレーションシステム:168百万円 メジャリングシステム:92百万円	
従業員数※	226	213	+13	+6.1%	当期の増加は13名です。	

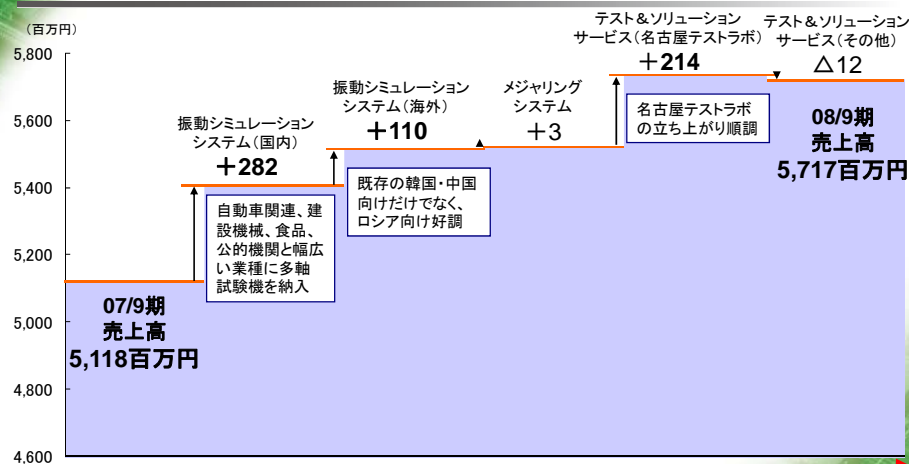
※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前期比598百万円増収の5,717百万円となりました。中間期にみられた急激な材料費の高騰の影響が残り、営業利益は前期比1百万円減益の248百万円、経常利益は前期比41百万円減益の292百万円となりました。また、繰延税金資産を取り崩したことにより、当期純利益は前期比54百万円減益の147百万円となりました。

3

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## 売上増加の内容(連結)

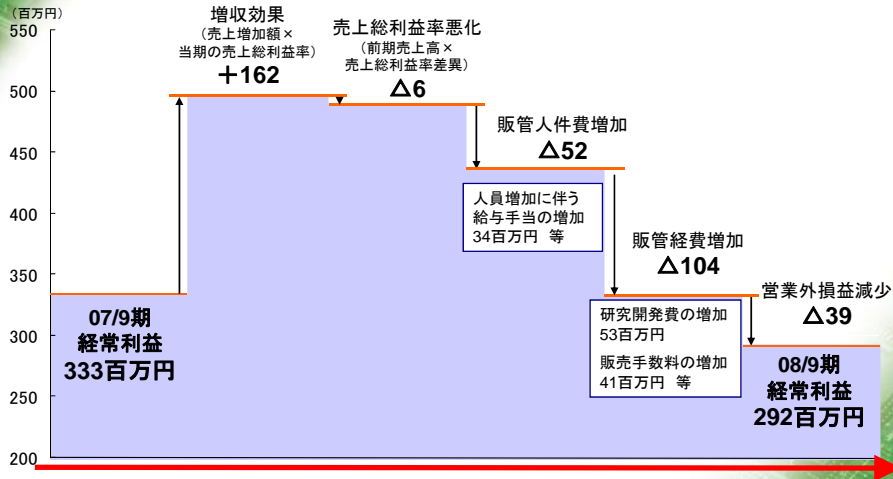


2008年9月期連結売上高は、国内外に振動シミュレーションシステムの販売が増加したことや名古屋テストラボの貢献により、前年同期比598百万円増収の5,717百万円となり、過去最高の売上高となりました。

4

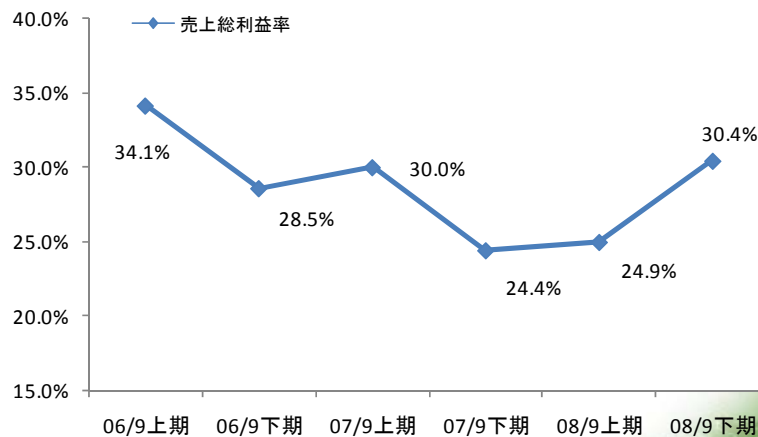
Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## 経常利益減少の内容(連結)



2008年9月期の連結経常利益は、増収による増益がありましたが、人員増加に伴う販管人件費の増加や、新製品の研究開発費などによる販管経費の増加があり、前期比41百万円減益の292百万円となりました。

## 売上総利益率推移(連結)



07/9下期から続いていた素材の高騰も高止まり、また08/9上期は技術的難易度の高い案件における追加原価の発生がありましたが、全社一丸となったコストダウン活動や、販売価格の見直しなどにより売上総利益率は下げ止まり、08/9下期は大きく改善しております。

## 特別損益の内容



(単位:百万円)

	08/9期 実績	07/9期 実績	増減額	増減率	概要
投資有価証券売却益	9	17	△8	△49.5%	
保険解約返戻金	55	0	+55	-	簡保解約による返戻金です。
貸倒引当金戻入益	0	-	+0	-	
特別利益計	64	17	+46	261.0%	
固定資産売却損	-	1	△1	△100.0%	
固定資産除却損	1	0	+0	259.7%	
投資有価証券評価損	0	0	+0	18.2%	
特別損失計	1	1	△0	△26.5%	
税金等調整前当期純利益	355	349	+6	+1.8%	
法人税、住民税及び事業税	140	134	+5	+4.4%	
法人税等調整額	67	12	+54	+439.5%	繰延税金資産の取り崩し70 百万円の影響です。
当期利益	147	201	△54	△26.8%	

確定拠出年金制度への移行に伴い解約した簡易生命保険の返戻金などにより特別利益として64百万円を計上しております。また、スケジューリング(税務上の損金算入時期の特定)が困難な繰延税金資産70百万円を取り崩したことにより、法人税等調整額は67百万円を計上しております。

7

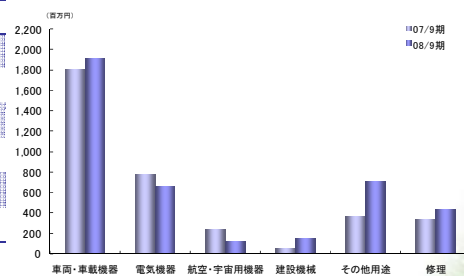
Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## 振動シミュレーションシステム ～概況～



(単位:百万円)

	08/9期	07/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	1,911	1,797	+113	+6.3%
電気機器向け	653	779	△127	△16.2%
航空・宇宙用機器向け	113	240	△127	△52.7%
建設機械向け	146	46	+100	+215.8%
その他用途向け	712	369	+343	+92.9%
修理	428	339	+89	+26.4%
合計	3,966	3,572	+393	+11.0%



- 売上高は前期比393百万円増収の3,966百万円となりました。
- 建設機械業界、食品業界、公的機関等の幅広い顧客で多自由度シミュレーションシステムが好調でした。



8

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

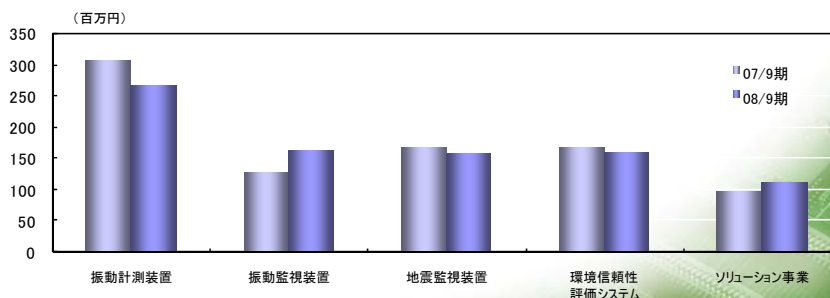
## メジャリングシステム ～概況～



(単位:百万円)

	08/9期	07/9期	増減額	増減率
振動計測装置	267	308	△ 40	△ 13.3%
振動監視装置	163	129	+33	+26.2%
地震監視装置	158	167	△ 8	△ 5.1%
環境信頼性評価システム	159	168	△ 9	△ 5.3%
ソリューション事業	111	97	+14	+14.6%
その他・修理	148	134	+13	+10.2%
<b>合計</b>	<b>1,008</b>	<b>1,005</b>	<b>+3</b>	<b>+0.3%</b>

- 売上高は前期比3百万円増収の1,008百万円となりました。
- ソリューション事業伸長  
問題解決現場でのニーズを元に開発した計測解析システムの販売が好調でした。
- 振動監視装置伸長  
設備老朽化に伴う更新案件が増加しました。
- 振動計測装置  
携帯型振動計用PDAのOS (Windows Mobile 6.0) 変更等による影響です。



9

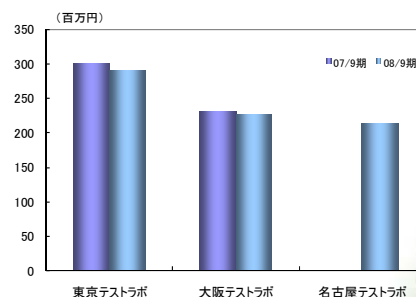
Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## テスト&ソリューションサービス ～概況～



(単位:百万円)

	08/9期	07/9期	増減額	増減率
東京テストラボ	291	300	△ 8	△ 3.0%
大阪テストラボ	227	232	△ 5	△ 2.2%
名古屋テストラボ	214	0	+214	—
子会社外部売上	8	7	+1	+19.0%
<b>合計</b>	<b>742</b>	<b>540</b>	<b>+201</b>	<b>+37.3%</b>



- 2007年9月に開設した名古屋テストラボの貢献により、売上高は前期比201百万円増収の742百万円となりました。
- 大阪テストラボにおいて、振動・衝撃試験を専門とする国内試験所としては初めて、ISO/IEC17025に準拠したIECQ独立試験所の認定を取得いたしました。東京・名古屋においても2008年12月に認定取得を予定しています。

10

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## 連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

	08/9期末	07/9期末	増減額		08/9期末	07/9期末	増減額
流動資産	3,556	3,706	△ 150	流動負債	3,030	3,302	△ 271
現金預金	417	218	+ 198	仕入債務	1,182	1,569	△ 386
売上債権	2,053	2,263	△ 210	短期有利子負債	1,244	1,247	△ 2
棚卸資産	927	951	△ 23	その他流動負債	603	485	+ 117
その他流動資産	157	272	△ 114	固定負債	1,967	2,136	△ 169
固定資産	3,748	4,071	△ 323	長期有利子負債	1,639	1,781	△ 141
有形固定資産	3,199	3,314	△ 114	その他固定負債	327	355	△ 28
無形固定資産	86	84	+ 2	負債合計	4,997	5,438	△ 440
投資その他資産	461	672	△ 210	純資産合計	2,306	2,339	△ 32
資産合計	7,304	7,777	△ 473	負債・純資産合計	7,304	7,777	△ 473

資産の部 : 投資有価証券の減少93百万円及び繰延税金資産の減少69百万円により、投資その他資産が210百万円減少したため、固定資産が323百万円減少しました。

負債の部 : 仕入債務が386百万円減少したため流動負債は271百万円減少しました。社債の償還により固定負債が141百万円減少しました。

純資産の部 : 50万株の自己株式の取得82百万円等により純資産の部は32百万円減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



(単位:百万円)

	08/9期	07/9期	増減額
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	255	493	△238
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	195	△1,040	+ 1,235
①+② フリーキャッシュフロー	450	△547	+997
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△311	267	△578
④ 現金及び現金等価物に係る換算差額	△0	△0	△0
⑤ 現金及び現金同等物の増減額	139	△279	+418
⑥ 現金及び現金同等物期首残高	218	498	△279
⑦ 現金及び現金同等物期末残高	358	218	+139

営業CF: 税前利益355百万円、減価償却費225百万円、売上債権の減少210百万円等による増加要因が、仕入債務の減少386百万円、法人税等の支払額39百万円等の減少要因を上回ったことにより255百万円の増加となりました。

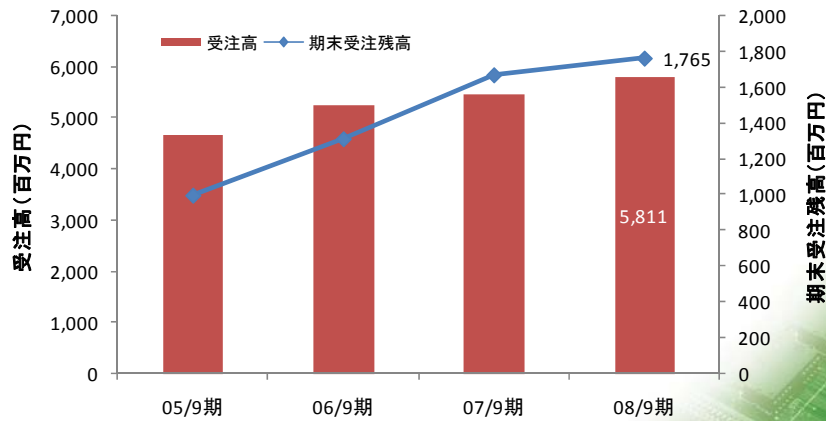
投資CF: 有形固定資産の売却による収入220百万円及び保険積立金の解約による収入111百万円等による増加要因が、有形固定資産の取得による支出242百万円及び長期性預金の預入による支出63百万円等による減少要因を上回ったことにより195百万円の増加となりました。

財務CF: 長期借入金の返済による支出417百万円、社債の償還による支出346百万円等の減少要因が、長期借入による収入600百万円等の増加要因を上回ったことにより311百万円の減少となりました。

## 受注の状況



過去最高の受注実績、受注残高



自動車関連業界以外にも幅広い顧客層において受注が好調であったことにより、当期の受注高は5,811百万円(対前年同期比6.1%増)、期末受注残高は1,765百万円(対前年同期比5.6%増)となりました。

## 業績見通し(連結概要)



(単位:百万円)

	09/9期 予想	08/9期 実績	増減額	増減率
売上高	5,762	5,717	+44	+0.8%
営業利益 (営業利益率)	253 (4.4%)	248 (4.3%)	+5	+2.1%
経常利益 (経常利益率)	258 (4.5%)	292 (5.1%)	△33	△11.5%
当期純利益 (当期利益率)	139 (2.4%)	147 (2.6%)	△8	△5.8%
設備投資	492	243	+249	+102.2%
減価償却費	278	225	+53	+23.5%
研究開発費	231	261	△30	△11.6%
従業員数※	235	226	+9	+4.0%
1株当たり当期純利益	8.51円	8.95円	△0.54円	△4.9%
1株当たり配当金※	4.0円	4.0円	±0円	±0%

- 自動車業界の景気減速の影響を考慮し、振動シミュレーションシステムは横ばいと想定。地震計や鉄道車両向けテストラボ事業等での収益確保を目指します。
- 徹底したコストダウンと経費節減により営業利益は253百万円、経常利益258百万円、当期純利益139百万円と予想しております。
- 設備投資は主に鉄道車両機器向け新試験棟及び専用試験装置に関するものです。
- 研究開発費は次世代振動シミュレーションシステムや新型振動計の開発によるものです。
- 従業員の採用は最小限に抑え固定費の増加を抑える方針です。
- 1株当たり配当金は、配当性向40%で計算した予想配当が4円を下回るため、業績に関わらず安定的に配当するとコミットしている4円となる見通しです。

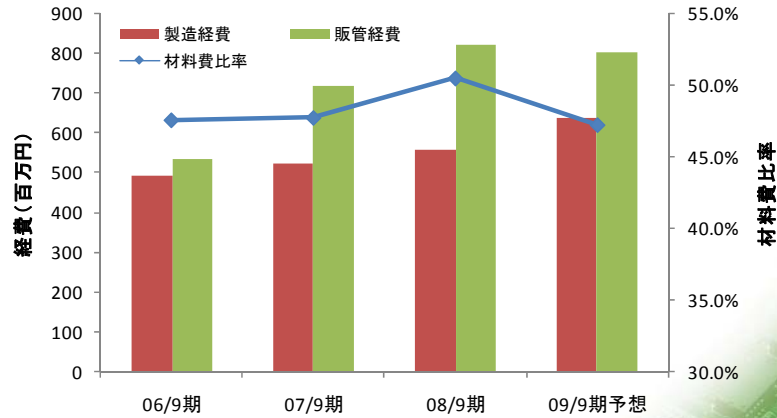
※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※08/9期の配当金につきましては、2008年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

## コストの削減



材料費比率の低減と経費カット



プロジェクト主導によるコストダウン活動と定価改定効果により材料費比率の改善を見込んでおります。製造経費は鉄道車両向け新試験棟の償却費負担により増加しますが、販管経費につきましては08/9期に増加した研究開発費や販売手数料を見直し、前期実績を下回る見通しです。

## 利益率改善の取り組み



### ① 見積もり精度の向上

➡ 部品単価表の月次更新と見積りへのフィードバック

### ② 設計審査の強化

➡ Design Reviewの強化とゲストエンジニア制度の推進

### ③ 原価分析の強化(細分化)

➡ 弱点部材の抽出と改善アプローチ

➡ 潜在的な無駄をあぶり出し抑制

### ④ 日々のRTM(工程内阻害要因チェック)活動

➡ 前後工程を含む横断的な改善活動(無駄の抑制)



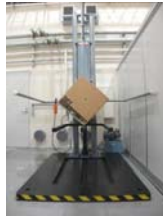
## 事業計画の進捗



名古屋テストラボで  
落下衝撃など振動以外の  
受託を拡大



落下式衝撃試験装置



落下試験装置

鉄道車両用テストラボの  
建設順調  
(09年2月稼動予定)



完成予定図

2008年11月19日  
の様子



導入予定/試験装置

## 事業計画の進捗



輸送環境試験パッケージ商品  
試験・計測から解析まで一連の  
ノウハウを提供



蓄積疲労振動試験システム  
K2ファティーグ



電気サーボモーター式  
加振機



輸送環境記録計  
タフログ

地震計  
専門営業部門を新設し  
営業強化



SW-74SI

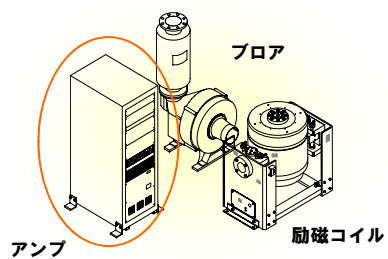


計測震度計 SW-92

## 事業計画の進捗



### 省エネ型 振動シミュレーションシステム の開発



### 海外戦略

- ・ロシア継続強化
- ・中国STI社※とサービス契約締結予定
- ・テストラボの海外展開で、現地企業との提携を計画中



※STI社: Suzhou Sushi Testing Instrument Co., Ltd. 中国最大の振動試験装置メーカー。



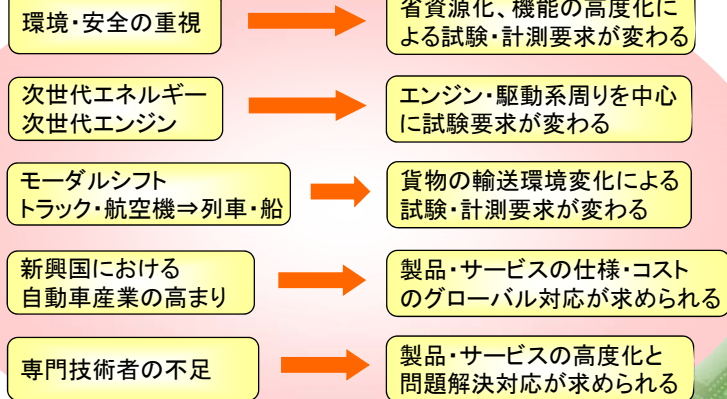
平成20年9月期 決算説明会

## IMVの技術戦略

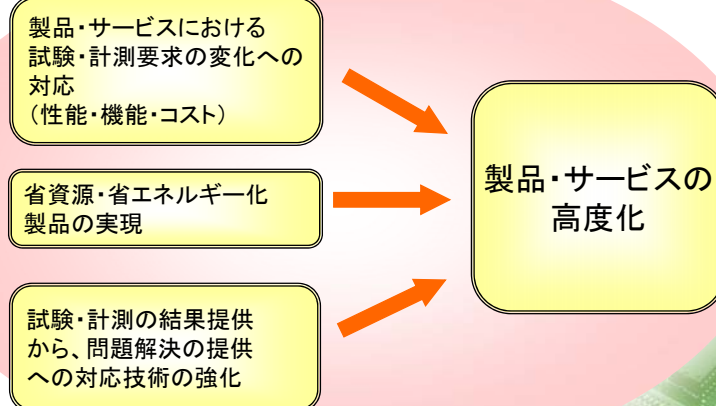


IMV株式会社 執行役員  
白星政和

## 社会動向と当社事業との関連



## 要求される技術の方向性



## 当社におけるアクション(1)



### ① 世界戦略振動シミュレーションシステムの開発に着手します

基本ユニットの徹底的な**コストダウン**を実施し(製造原価半減)  
新興市場でも売れるだけの競争力を実現する

**高付加価値機能**との親和性を維持し、高度化システムへの  
“変身”を容易にする

## 当社におけるアクション(2)



### ② 高付加価値機能を開発し、高度化システムに対応します

#### 製品のインテリジェント化 を追求する

省エネルギー及び  
低騒音運転機能

稼動モニタリング  
自己診断機能

オペレーター  
支援機能

#### 試験リアリズム を追求する

複合環境を  
忠実に再現

多軸振動を  
忠実に再現

フィールドの振動  
波形を忠実に再現

## 当社におけるアクション(3)



### ③ 解析技術を強化します

試験・計測結果の提供から、**問題解決**へ、サポート範囲を拡大する

問題解決のキーとなる**解析技術**を強化する

現状の**TSS事業**(テスト&ソリューション事業)を基軸として  
情報発信・情報収集し、必要な試験・計測技術を高める

## グローバルな展開へ

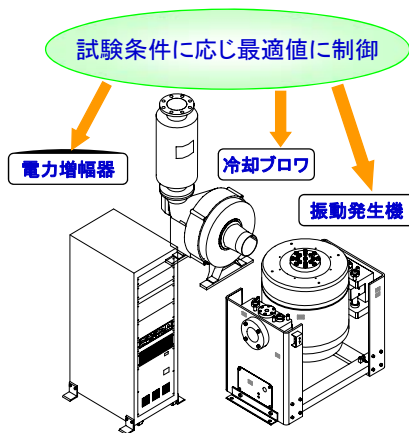


## 省エネ型振動シミュレーションシステム

**HOT !!**  
**時代を掴む製品の実現**

## 省エネ型振動シミュレーションシステム

省エネ、CO2削減が求められる世情を反映して、  
省エネと低騒音を特徴とする振動試験機を開発



### 従来型

振動発生機本体にある励磁コイルと、冷却ブロウを装置の最大定格（フルパワー）運転時の出力で運転させ、試験条件に応じて電力増幅器出力のみを制御する

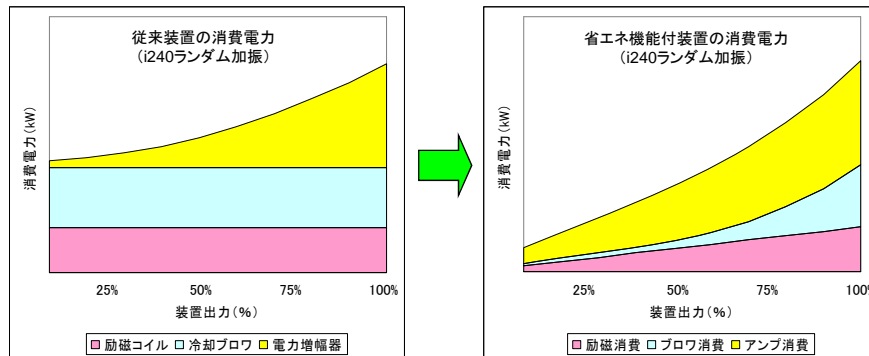
### 省エネ型

試験条件に応じて、消費電力が最小となるように、電力増幅器、励磁コイル及び、冷却ブロウの出力を最適値で制御する

## 省エネ型振動シミュレーションシステム



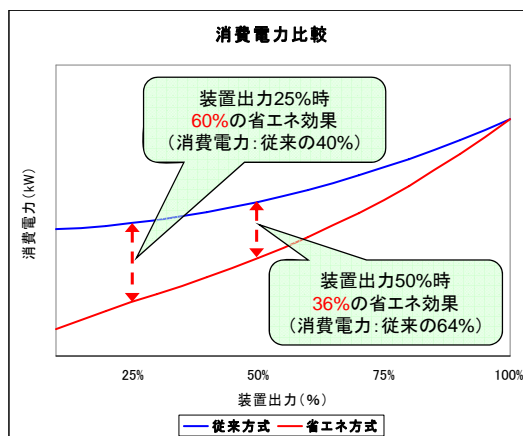
省エネ効果の概要(実験データによるシミュレーション)  
(当社製品i240/SA3Mをランダム加振で使用した場合)



## 省エネ型振動シミュレーションシステム



省エネ効果の比較(実験データによるシミュレーション)  
(当社製品i240/SA3Mをランダム加振で使用した場合)



i240(最大加振力24kN)における  
電力料金、CO2削減量の試算

条件

1. 装置平均出力 : 25%
2. 年間平均稼働率 : 70%

試算

1. 電気料金節約額  
約69万円/年
2. CO2削減量  
約24ton/年

## 明日に向けての要素開発



鉄道車両用機器の振動試験技術の開発

システムのインテリジェント化技術の開発

輸送環境記録計の開発

非ガウス性ランダム試験の研究

携帯型振動計プラットフォームの開発

非線形系制御の研究

無線化技術の研究



## 中期事業計画 新PRESTO 2013





## 事業環境の現状と今後

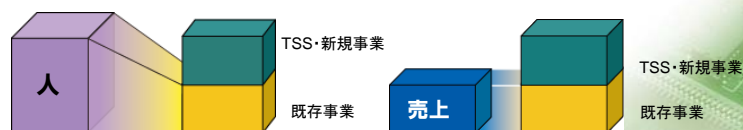
<p><b>Strength</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内唯一の上場企業</li> <li>高い技術ポテンシャル</li> <li>総合振動試験機メーカー</li> </ul>	<p><b>Weakness</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産性が低い</li> <li>グローバル化への対応が不十分</li> <li>技術領域の狭さ</li> </ul>
<p><b>Opportunity</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他社からのアプローチが増えた</li> <li>環境重視の潮流</li> <li>一体感の醸成に役立つ</li> </ul>	<p><b>Threat</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連業界の設備投資の急減</li> <li>信用収縮</li> <li>競争激化</li> </ul>

## 基本戦略

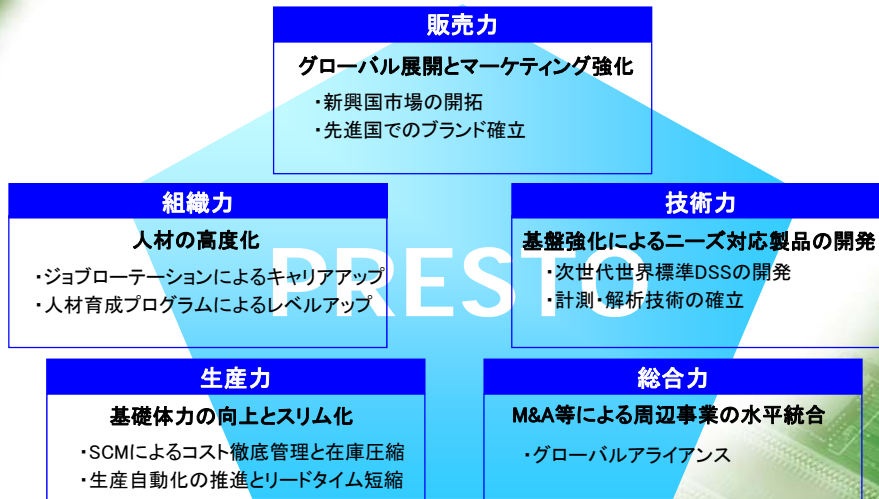
効率化により1/2のリソースを新規事業へ

次世代世界標準DSSのリリース

グローバルシェア 30%



## 機能戦略



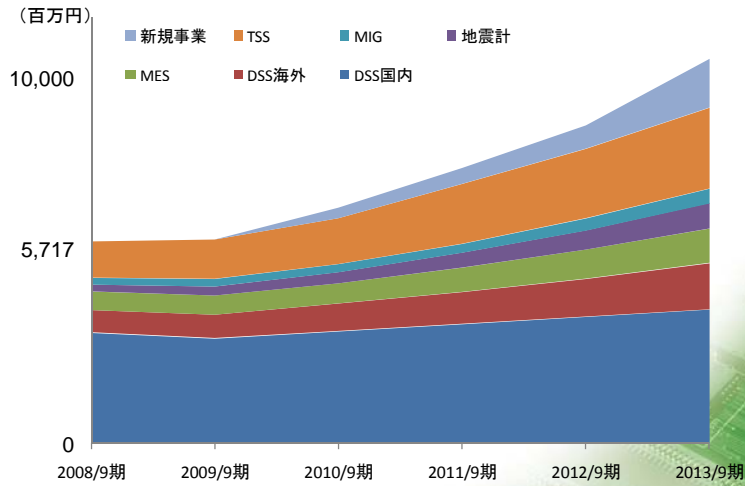
## 数値目標



(単位: 百万円)

	2008年9月期 実績	2013年9月期 計画
売上高	5,717	10,000
経常利益率	5.1%	15.0%
輸出比率	11.4%	20.0%

## 成長のイメージ



※ご参考資料で上記グラフで使用している用語の解説をしております。

## ありがとうございました



代表取締役会長	小嶋 成夫
代表取締役社長	岡本 二郎
執行役員(技術本部長)	白星 政和

### お問合せ先

IR窓口: 総合企画部・IR担当 大和  
 TEL: 06-6478-2565 FAX: 06-6478-2567  
 E-MAIL: imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

### ○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



(ご参考資料)



## 用語説明



DSS……振動シミュレーションシステム(振動試験装置、複合環境試験装置)

MES……メジャリングシステム(振動計測装置、振動監視装置)

MIG……環境信頼性評価システム(マイグレーションテスター、導通信頼性テスター)

TSS……テスト&ソリューションサービス(テストラボ事業、ソリューション事業)

## 会社概要 (2008年9月期:連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)  
証券コード : 7760 (ジャスダック証券取引所/精密機器)  
設 立 : 1957年4月17日  
事業概要 : 環境テストシステム(振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステム)の製造・販売及びテスト&ソリューションサービスの提供  
代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫  
代表取締役社長 岡本 二郎  
売 上 高 : 5,717百万円  
経 常 利 益 : 292百万円  
資 本 金 : 464百万円  
従 業 員 数 : 226人 (57名の期中平均臨時従業員含む)  
本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10  
(本社/R&Dセンター/大阪工場/東京工場/東京各営業所/海外事業部  
/大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

## 会社沿革



- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請  
小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 9月 日東精機株(現連結子会社)を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 ジャスダック証券取引所に上場
- 2007年 2月 大阪にショールーム開設
- 2007年 4月 会社設立50周年
- 2007年 9月 名古屋テストラボ開設
- 2008年 2月 大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設(予定)

# SECURE THE FUTURE

～IMVが見守る未来～

## FIRST Choice for our Partners

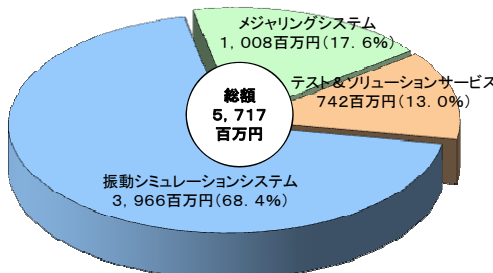
- Future** 安全を見つめて未来の社会に貢献します
- Integrity** 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
- Reliability** 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
- Strength** 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
- Technology** 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

## 国内トップシェアを実現する3つの事業

振動を**再現**する  
振動シミュレーションシステム



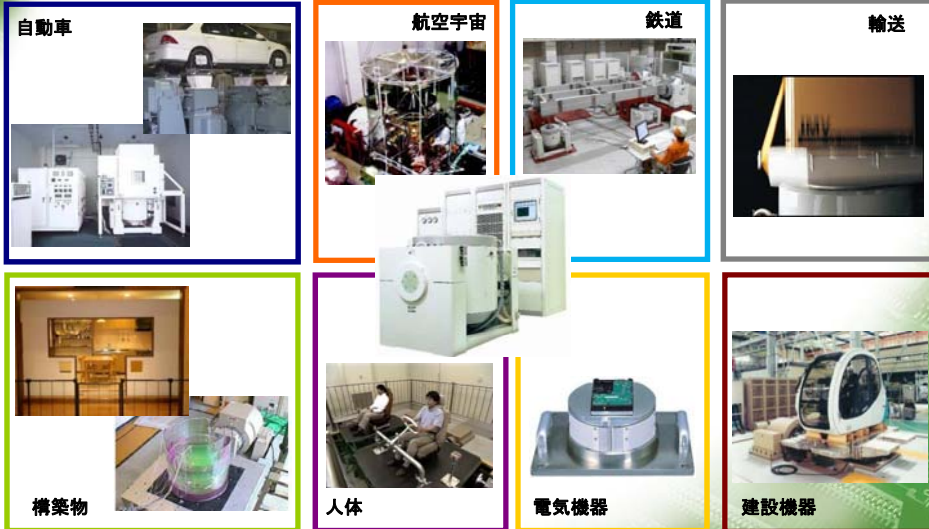
振動を**計測**する  
メジャリングシステム



振動問題を**解決**する  
テスト&ソリューションサービス



## 振動シミュレーションシステムの用途 ～あらゆるシーンで使用されています～



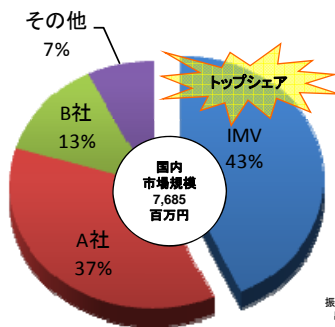
45

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

## マーケットの状況 ～国内トップシェア～



【マーケットシェア】



振動シミュレーションシステムの市場規模  
出典：日本試験機工業会／平成17年  
帝国データバンク資料、会社ホームページ

【他社との比較】

	株式	得意分野	振動シミュレーションシステム構成要素	テストラボ	計測関連
	上場	フルラインナップ	全て自社製	3ヶ所	振動計測・監視装置、地震監視装置、MIG
A社	未上場	単軸・複合	他社より一部購入	1ヶ所	振動計(一部)
B社	未上場	多軸	他社より一部購入	なし	振動計(一部)

出典：帝国データバンク資料・会社ホームページ、その他当社調査による

46

Copyright © IMV CORPORATION 2008 All right reserved

# 業績推移(連結)

